

広報ただみ診療所

今年もインフルエンザは
流行らないの？

朝日診療所
所長

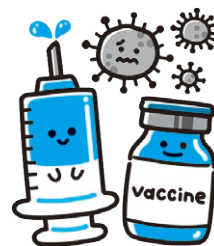
わかやま たかし
若山 隆



皆さんこんにちは！10月末現在、新型コロナウイルス感染症はかなり減少していますね。大変すばらしいですが、いつまた増えてくるのかと心配になったりもします。3回目の新型コロナワクチン接種も実施される予定ではあるのですが、それがいつどのように行われるかまだ決まっていないので、その話はまた後日させていただきたいと思います。

今回は毎年この時期おなじみのインフルエンザに関するお話です。しかし、去年はまったくインフルエンザが流行していなかったこともあり、今年も流行しないとタカをくくっている方が多いのではないのでしょうか？診療所でも、昨年度はインフルエンザと診断した方がほぼいませんでした。この原因として考えられることは幾つかあり、一つは新型コロナウイルス感染症の流行で、世界中でマスク・手洗い・外出自粛・宴会自粛などの対策がとられていたことが大きいとされます。他には、ウイルス干渉という現象があることが知られています。ウイルス干渉とは、あるウイルスが流行すると他のウイルスが流行しないというものです。理由としては、あるウイルスに感染した人は、免疫の活性化によりしばらくの間は他のウイルスが感染しにくい状態になるためです。つまり、コロナウイルスが流行すると、インフルエンザウイルスが流行しないということです。

しかし、これは裏を返せば、コロナウイルスが流行しなくなったら、インフルエンザウイルスが流行するだろう、ということです。コロナが減れば、感染対策に油断もできますよね？外出も宴会も増えますよね？コロナが減れば、ウイルス干渉が逆転しインフルエンザが増えるということなのです。そんなわけで、コロナウイルスが下火になっているときこそ、インフルエンザワクチンの接種をお勧めいたします。



地域おこし協力隊として Vol.83

「空き家対策」始めませんか？

移住定住支援協力隊 いまぜき まき
今関 真貴



私の住む家はいわゆる「空き家」物件です。入居に際しては、大家さんが家の片付けとメンテナンスをしてくださり、快適に心地よく過ごすことができます。食器棚にはレトロなコップ、車庫には秩序良く並んだ釘やノコギリ、スコップや支柱などの道具があり、庭では季節ごとの花が咲きます。ここで暮らしていると、以前お住まいだったご家族が丁寧に生活し、庭仕事を楽しんでいた様子が目に浮かび、この家をお借りできたご縁をとってもありがたく感じます。

空き家を次の住み手に繋ぐためにはご縁とタイミングも重要な要素のひとつだと思います。空き家の状況（立地、築年数、間取り、家財の有無など）は物件毎に異なりますし、利用希望者が住まいに求める条件も千差万別ですが、「空き家対策なんて今はまだ早いかな？」と持っているうちに売却や賃貸のタイミングを逃してしまうこともあるかもしれませんし、活用できなければ費用をかけて解体することも考える必要があります。

適切なタイミングで空き家の利活用を進めるためには、まずは対策方法を知ること。そして将来をイメージすること。また、身近な人と相談しながら“家の終活”を始めることも大切です。空き家だけでなく自宅や実家について、皆さんも考え始めてみませんか？